

県立広島大学宮島学センター開所10年記念 頼山陽史跡資料館・宮島学センター連携展示 「描かれた」宮島を開催しました

頼山陽史跡資料館（広島市中区）と共同して、平成30年7月21日（土）から9月2日（日）まで、企画展示「描かれた」宮島を開催し、757名の方にご来場いただきました。



江戸時代後期から明治の書画作品を中心に、様々なジャンルから「描かれた」宮島の姿を紹介しました。

本センターからは、江戸後期の絵師岡岷山「巖島図」や「巖島社頭図」（仙岳版）など15点の作品を提供しました。



岡岷山「巖島図」（宮島学センター所蔵）

広島藩士・岡岷山（1734 - 1806）は、宋紫石に学び、藩命により領内各地を観察写生しました。

藩主や諸家の求めに応じて多くの絵を画き、宮島を題材にした作品も少なくありません。

宮島学センターが所蔵する「巖島図」は、巖島神社の社殿と大鳥居を中心に、弥山や御笠浜、有浦を写生的に画いています。一方、頼山陽史跡資料館が管理する「巖島図」には、宮島のシンボルであ

る大鳥居が画かれていません。これは、六代目の大鳥居が落雷のため焼失してから再建されるまでの期間（1776 - 1801）に制作されたからであると推定されています。この企画展示では、同館の花本哲志主任学芸員のご配慮により、両作品を並べてご覧いただくことができました。

学生の活動

展示・撤収作業には学芸員資格の取得を目指す学生16名が参加しました。

学生たちは、頼山陽史跡資料館の花本主任学芸員の指導のもと、大学の授業で身につけた知識を活かしながら、掛け軸や巻子の展示方法について実践的に学びました。



展示作業の様子



また、7月21日、8月11日、8月25日には、花本主任学芸員と、宮島学センターの大知徳子助教が作品の見どころを紹介する展示解説をおこないました。一部の作品については、国際文化学科4年生の上田真凜さんと武政百合子さんも解説に加わりました。

学生たちは、『芸州巖島図会』〈天保13年（1842）〉の記述を引用しながら、宮島の大願寺や、大風呂釜（宮島歴史民俗資料館寄託）、大元神社、石風呂跡等についてわかりやすく解説しました。



展示解説会

学生による企画展示

「宮島の町並み—江戸時代の資料から読み解く—」を開催しました

宮島学センターでは、平成21年の開所以来、毎年夏期に広島キャンパス図書館で企画展示を開催しています。10回目となった今年のテーマは「宮

島の町並み—江戸時代の資料から読み解く—(平成30年8月20日～9月27日)でした。



猛暑の中、288名の方にご来場いただきました。

企画展示の準備は、今回も学芸員の資格取得を目指し、「博物館展示論」を履修する学生11名が担当しました。今年度は、センターが所蔵する資料の中から、近世・近代に発展を遂げた宮島の

町並みに関する資料を選んで展示しました。

学生たちは、資料を読み込むだけでなく、現地での取材もおこない、厳島門前町の西側の地域(西町)に残る僧坊や社家の屋敷の変遷を紹介しました。



現地調査

有浦を中心に発展した厳島門前町の東側の地域(東町)については、今伊勢神社、存光寺、幸神社などを紹介しまし



展示の様子

た。また、宮島のお土産物の定番である杓子を考案したことで有名な僧・誓真についても紹介しました。

僧・誓真は島民から「宮島の恩人」「誓真さん」と呼ばれ慕われています。彼が島内に掘った10ヶ所の井戸(誓真釣井)についても、江戸時代の絵図やパンフレットの写真と、現在の地図や写真とを比較して紹介しました。



久保町の誓真釣井『厳島』(厳島神社社務所)

例えば、久保町(宮島)には「寛政二年庚戌三月吉日」の刻銘のある釣井がありましたが、道路の中央に位置していたため、昭和に入って埋められました。『厳島』(厳島神社社務所、昭和30年)には、埋立前の写真が掲載されています(左の写真参照)。現地には、井戸に宿る神が息をすることができるよう、息抜きのパイプが今も残されています。

8月20日と9月27日には、展示を担当した学生によるギャラリートークをおこないました。資

料の拡大写真などを利用しながら、キャプション(解説文)だけでは伝えきれなかった資料の魅力を、自分たちの言葉で、直接伝えることができました。

ご来場いただいた方からは、「町の構成など、江戸時代の人々の生活を感じさせる内容であった」、「宮島には神仏習合の名残がある場所があること、杓子の産業を興した誓真という人物がいたことなど、広島に住んでいながらも知らなかった宮島の歴史を知ることができた」といった感想をお寄せいただきました。

オープンキャンパス

また、広島キャンパスのオープンキャンパス(8月7日)では、図書館での企画展示に先んじて、一部の作品を宮島学センターで展示公開しました。



企画展示を担当した学生のうち3名が、訪れた高校生に作品の魅力を伝えました。

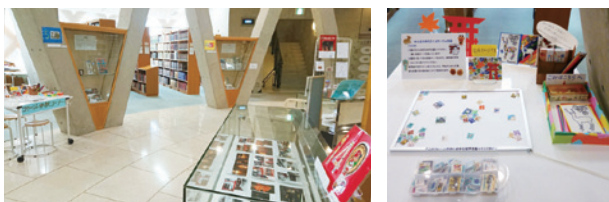
宮島学センター開所10年記念企画展示
「宮島の切手と写真—昭和の記憶を辿る—」
を開催しました

宮島学センターは平成30年に開所10年目の年を迎えました。これを記念して、企画展示「宮島の切手と写真—昭和の記憶を辿る—」(平成30年10月9日～11月8日)を開催しました。

厳島神社のイラストが切手に採用されたのは「30銭 厳島神社」(昭和14年4月3日発行)が最初です。その後、厳島神社の写真やイラストは、繰り返し切手に使用されてきました。企画展示では、昭和14年4月から平成30年9月までに発行された宮島の切手を紹介しました。

また、およそ60年にわたって宮島を撮り続けた船附理人氏の作品や、同氏の作品を用いたフレーム切手「みやじま美の粹」シリーズなど、センターの活動にお力添えをいただいている方々の切手や写真のコレクションも、特別にお借りして展示することができました。





また、この企画展示の準備にも学芸員養成課程で学ぶ学生5名が参加し、使用済み切手を利用したコラージュ体験コーナーや、風景印の紹介コーナーを設置しました。来場者の皆様の手によって完成したコラージュ作品は、会期終了後に宮島学センター前の掲示コーナーに展示しました。



名古屋市立名東高等学校による施設見学

11月1日、名古屋市立名東高等学校の生徒38名が、宮島で研修をおこなう前に、宮島・広島の世界文化遺産や歴史について学ぶべく、宮島学センターを訪れました。宮島学センターの教員が宮島の歴史や文化について60分の講義をおこなった後、図書館に移動して、企画展示「宮島の切手と写真－昭和の記憶を辿る－」を見学しました。展示解説は、この企画展示の準備をおこなった国際文化学科4年生の上田真凜さん、上中望妃さん、3年生の吉田美樹さんが担当しました。

学生たちは、2001年に国連が発行した切手「世界遺産－日本」を手がかりに、世界文化遺産「厳島神社」の魅力を語りました。



平成30年度「宮島学」

平成30年度の「宮島学」(国際文化学科2年次配当科目)は、日本史、日本文化史、日本文学、考古学、英文学、中国文学などを専門とする教員が担当しました。国際文化学科2年生を中心に51名の学生が受講しました。

講義		
4/16	「地域文化学(宮島学)」とは	大知 徳子
4/23	厳島に伝わる舞楽とその来源	柳川 順子
4/24	平家納経の世界	西本 寮子
5/7	平清盛の経済施策と厳島神社	鈴木 康之
5/14	宮島にもたらされた陶磁器	鈴木 康之
5/21	毛利元就の厳島信仰	秋山 伸隆
5/28	厳島神社と石見銀山	秋山 伸隆

6/4	厳島八景の成立と京の人々	柳川 順子
6/11	厳島八景の成立と宮島を訪れた人々	柳川 順子
6/18	宮島と広島城下の人々	大知 徳子
6/25	広島城下の商家	西本 寮子
7/2	宮島と江戸文化①	高松 亮太
7/9	宮島と江戸文化②	高松 亮太
7/23	外国人が見た明治・大正時代の宮島	天野みゆき

フィールドワーク		
6/16	船附洋子さんと歩く宮島(東町)	西本 寮子 大知 徳子
6/16	飯田勝彦さんと歩く宮島(西町)	高松 亮太 大知 徳子
6/30	誓真さんを訪ねて	秋山 伸隆 大知 徳子

6月16日におこなったフィールドワークでは、宮島で生まれ育った船附洋子さんと飯田勝彦さんに、宮島の社寺や町並みを案内していただきました。

① 船附洋子さんと歩く宮島(東町): 6月16日午前

船附洋子さんには、宮島棧橋から、港町(小浦)に現存する「誓真釣井」、存光寺、不動堂、山辺古径(厳島古寺参道)、宝珠院、幸神社などを案内していただきました。江戸時代の面影を残す場所では、『芸州厳島図会』(天保13年(1842))の挿絵を学生に見せながら、ご案内いただきました。



港町の誓真釣井



不動堂

② 飯田勝彦さんと歩く宮島(西町): 6月16日午後

午後からは、本センターの学外協力員である飯田勝彦さんに、厳島門前町の西側の地域(西町)を案内していただきました。

まず、飯田さんのお取り計らいにより、宮島の大願寺で、ご住職に講話をいただき、本堂や書院を見学しました。



また、久保町や大西町の誓真釣井跡や、第二次世界大戦後にオーストラリア進駐軍に接収されていた当時の大元公園周辺の様子や、滝町の僧坊跡についてご案内いただきました。

③誓真さんを訪ねて

秋山伸隆宮島学センター特任教授の指導のもと、宮島島内に現存する4ヶ所の「誓真釣井」や「誓真大徳碑」などを探訪しました。

なお、7月29日に予定していた管絃祭における提灯づくりボランティアは、台風の影響により中止となりました。次回、長浜神社で皆様にお会いすることを楽しみにしています。

平成30年度公開講座・講演会

宮島学センター公開講演会

三次市、三次地区自治会連合会と共催

「宮島の大鳥居の歴史」

講師：秋山伸隆

会場：三次ふれあい会館

受講者：122名



宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催

第1回宮島学センター所蔵資料を読む

「小早川隆景書状と厳島合戦」

平成30年9月12日

講師：秋山伸隆

会場：はつかいち文化ホールさくらびあ

受講者：134名

第2回宮島学センター所蔵資料を読む

「『宮島参詣膝栗毛』を読む」

平成30年12月5日

講演：高松亮太

会場：国民宿舎みやじま杜の宿

受講者：66名

第3回

「戦国時代の厳島社五重塔と厳島町衆」

平成31年2月20日

会場：国民宿舎みやじま杜の宿

講師：宮島学センター学外協力員 本多博之（広島大学大学院文学研究科教授）

受講者：94名

平成30年度 「宮島観光学入門（英語）」

平成30年度「宮島観光学入門（英語）」（全学共通教育科目・一年次集中講義）は10名の学生が履修しました。この授業は、宮島を訪れる外国人観光客に対して、英語でガイド実践をおこなうことを目標としています。

初回の授業では、昨年度「宮島観光学入門（英語）」を履修した国際文化学科2年生の遠藤美樹さんが、宮島に関するクイズをまじえながら、宮島観光の基礎知識やガイドの経験談について語りました。

また、西本寮子宮島学センター長から、混雑期の宮島でも確実に伝えるための発声方法について学びました。

第2回の授業では、馬本勉教授から、日本文化を英語で説明する方法についてグループワークやペアトークを楽しみながら学びました。

第3回の授業からは、外部講師のリチャード・ウェバー先生から宮島の歴史や文化や、外国人観光客に対するガイドのノウハウについて学びました。

授業で身につけた知識と技術を駆使して、11月4日には、宮島でガイド練習をおこないました。学生たちはウェバー先生のガイド



遠藤さんによる
プレゼンテーション

を参考にしながら、観光客の動線を確認し、厳島神社の石鳥居から神社出口まで案内できるよう、学生同士で協力しながら練習しました。

また、今年度は、ガイドの補助ツールとして、大鳥居や狛犬、高舞台などの説明に使用するイラストの作成にも力を入れました。とくに言葉では表現することが難しい舞楽の説明の際には、舞楽「蘭陵王」の写真やイラストが役に立ちました。



学生が作成したイラスト。観光客から好評を得た。

宮島でのガイド実践

12月2日、学生は3つのグループにわかれ、ガイド実践をおこないました。宮島の商店街の出口付

近、石鳥居の前で待機し、訪れた外国人観光客に声をかけ、厳島神社出口まで英語で案内しました。



この日は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、トルコの観光客を案内しました。大鳥居の前には多くの観光客が集まり写真を撮影するため、他の観光客の邪魔にならないように、少し離れた場所で説明しました。

大鳥居の大きさや構造を説明する際には、事前に用意しておいたイラストが役に立ちました。



案内をした外国人観光客から、ガイドの感想をいただきました

My friend and I were recently taken on a tour of Miyajima shrine by some of your students. I can't express how impressed I was! Their knowledge of the shrine was very fantastic, they were very talkative and answered all of my questions. The amount of time and effort they had put into preparing their materials was clear, and it was a very memorable and enjoyable experience. Please pass on our thanks to the 3 girls. Thanks again.

(平成30年12月4日受信)

参加した学生の感想

ガイドや観光業に興味があり、この授業を受講しました。非常にやりがいのある授業で、ガイドをおこなうことの魅力や課題に気がつくことができ、何よりガイドを楽しむことができたので、本当にこの授業を受けて良かったと思えた。ガイドツアーを通して、シナリオ通りに進めることや、たくさん説明することよりも、相手に満足してもらえること、相手に楽しい旅だったと思ってもらえることが大切だということに気がつくことができたことが、一番の収穫でした。異文化の情報を伝えるためにガイドをするのではなく、情報は、あくまで異文化の空間を楽しんでもらうためのツールにすべきであると思います。授業が終わったあとも、個人的に宮島での英語ガイドを続けたいと思います。

(J. H レポートより抜粋)

全国厳島神社参詣記⑩

秋山 伸隆

厳島神社／大元神社

住所：島根県益田市中須町434番地

島根県益田市に中須東原遺跡がある。益田川河口近くに立地する中世の港湾遺跡で、発掘調査によって大規模な礎敷きの船着場跡や掘立柱建物跡などが確認された。全国的に見ても屈指の規模・内容を有する中世港湾遺跡として、2014年3月、国の史跡に指定されている。

中世の益田市域は、石見の有力国人領主益田氏の本拠地であり、この遺跡は益田氏の経済基盤を支えた物資の集散拠点であり、東アジアとの交易も行われたと考えられている。

中須東原遺跡の北方(海側)200mほどのところに厳島神社がある。江戸時代の浜田藩領益田組七浦大年寄を務めた中須村大賀家の鎮守社であったものを、中須村の氏神としたと伝えられている(『史跡中須東原遺跡保存活用計画書』p.25、益田市・益田市教育委員会、2016年)。大賀家は、もとは三隅湊(浜田市)を本拠とする大賀氏の一族で後に益田氏の家臣となったが、毛利氏(益田氏)の防長転封には従わず、中須の地に留まったと思われる。

中須の厳島神社の創建の時期などは不詳であるが、船持商人的な側面も持ち、益田氏と肥前平戸の領主松浦氏との交渉の使者を務めるなど、海を活躍の舞台とした大賀氏が勧請したものであろう。ちなみに厳島神社の境内には、大元神社と恵毘須神社も祀られている。宮島の厳島神社と大元神社・長浜神社の関係を想起させ、興味深い。

(秋山伸隆)



厳島神社(鳥居の前から撮影した写真)



大元神社と恵毘須神社(石柱2本が見える)

研究余録⑩

永禄4年の大鳥居造営

厳島神社の現在の大鳥居(重要文化財)は明治8年(1875)に建てられました。平清盛の時代のものを初代とすると、8代目にあたります。

歴代の大鳥居の中で「最長不倒」を誇るのは、毛利氏の時代に建てられた5代目です。このときの工事の様子は、大願寺文書によって詳しく知ることができます。

4代目の大鳥居は、大内氏の時代の天文16年(1547)に造営されましたが、10年ほどで失われたようです。喪失の原因もわかりませんが、もっとも短命の大鳥居でしょう。

5代目の造営が始まったのは永禄3年(1560)10月のことです。毛利元就奉行人^{こだまなりあき}児玉就秋と隆元奉行人^{あわやもとたね}粟屋元種が連署して、材木や資材の調達を大願寺に指示しています。元就・隆元は天文16年の造営にも協力していますから、2代の大鳥居の造営に関わったことになります。

実際の作業は永禄4年(1561)正月から始まり、2月16日から3月15日まで能美島で「身柱」(主柱)2本の伐り出し作業が行われています。「脇柱」(袖柱)は仁保島(広島市南区黄金山)と岩国で2本ずつ伐り出されました。

主な材木がすべて宮島に到着したのは4月26日です。動員された人数は延べ9,292人、うち5,173人は能美島で「身柱」の伐り出しに従事しています。巨大な柱の用材の輸送がいかに難事業であったかがわかります。

5代目の大鳥居は正徳6年(1716)7月20日に風もないのに倒壊したと伝えられています(正徳5年とする記録もあります)。建立から155年目のことでした。

現在の大鳥居も、今年で建立から144年目を迎えます。2019年6月からは大規模な修理工事が予定されています。宮島学センターとしても、この機会に大鳥居の歴史を振り返る企画展の開催を計画しています。(秋山伸隆)

宮島学センターに 資料を御寄贈いただきました

宮島学センターに資料を御寄贈いただきました。厚く御礼を申し上げます。

□吉田 慶良さん

資料名

- ・折敷畑合戦絵図(江戸時代)
- ・巖島社頭之図(宮島仙岳版)
- ・安芸州巖島図会(江戸時代)

・巖島之雪(昭和7年、川瀬巴水)

他8点



「折敷畑合戦絵図」(部分)

「折敷畑合戦絵図」は、江戸時代の廿日市周辺の景観を知ることができます。

□竹内 優佳さん

資料名：野坂元貞 短冊(江戸時代)

野坂元貞は、江戸時代に巖島神社の大宮棚守を務めた人物です。

(解釈) ある時は桜に見紛われ、またある時は月の妨げとされるのも、自らが空を浮遊しているゆえであると、この世を「憂世」と観じたのであろうか。もはやこの世に跡をとどめることもなく(空に浮かんでいることもなく)、すっかり消え去ってしまった峰の白雲であることよ。
(高松亮太)

雲
花とみへ月にさはるもうき世とや
あともとゝめぬ峯の白雲 元貞



「野坂元貞 短冊」

編集後記

宮島学センター通信第10号をお届けします。

宮島学センターは、平成31年4月に開所10周年を迎えます。開所以来収集してきた古文書、古典籍、絵図、錦絵、絵はがきなどの写真データを公開するデジタルアーカイブサイトをオープンします。ぜひご活用ください。(0)

編集・発行

宮島学センター通信 第10号

平成31年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9550

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/miyajima/>